



## 九州初開催 第5回「山の日」記念全国大会 おおいた2021

### 「山に遊び 恵みをいただく ~おんせん県おおいたの山と人との絆を未来へ~」

#### ◆記念式典◆

今年で5回目となる「山の日」記念全国大会が8月10日〜12日大分県で開催されました。

「山の日」記念全国大会は、新型コロナウイルス感染拡大により大会が1年延期され、今回の開催となり、九州では初めての開催となりました。

11日に九重町九重文化センターで開かれた記念式典には、地元住民の方々約520人が参加しました。記念式典では、実行委員会顧問で超党派「山の日」議員連盟会長の衛藤征士郎衆議院議員が開会宣言を行い、主催者挨拶で実行委員長の大瀬勝貞大分県知事が行い、日野康志九重町長、土居昌弘竹田市市長が歓迎の挨拶を行いました。

た。来賓挨拶では、小泉進次郎環境大臣代理として岡本光之九州地方環境事務所長のあ

とに、天羽隆林野庁長官の代理として小島孝文九州森林管理局長から、「国民の皆様へ山に来ていただき、新鮮な空



式典で挨拶される小島局長（写真提供：大分県）

認識を深めていただくような取組を環境省、大分県として関係市町村と連携して進めていきたい」との挨拶のあと、林野庁長官の祝辞を代読されました。

メインアトラクションでは、俳優の石丸謙二郎さんをナビゲーターに、タテ原湿原やくじゅう連山の自然保護、登山道の整備や野焼きを行っている4団体から日頃の活動の報告があり、また、地元住民の皆さまと歌手の芹洋子さんによる「坊がつる讃歌」の合唱もありました。

式典の最後には、来年の開催地である山形県の吉村美栄子知事へ大瀬勝貞大分県知事から歴代開催地の缶バッジを付けた、「山の日帽」が引き継がれました。

#### ◆歓迎フェスティバル◆

九重町田野の長者原では、「山の日」記念全国大会の歓迎フェスティバル及び九重町が主催するくじゅうフェスタが開催されました。特設ステージでは、地元このえ緑陽中





来客に対応するスタッフ

※「山の日」は、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する「日」として2014年に制定された国民の祝日です。第1回は長野県松本市で開催されました。  
(担当「技術普及課」)



参加してくれた子供達

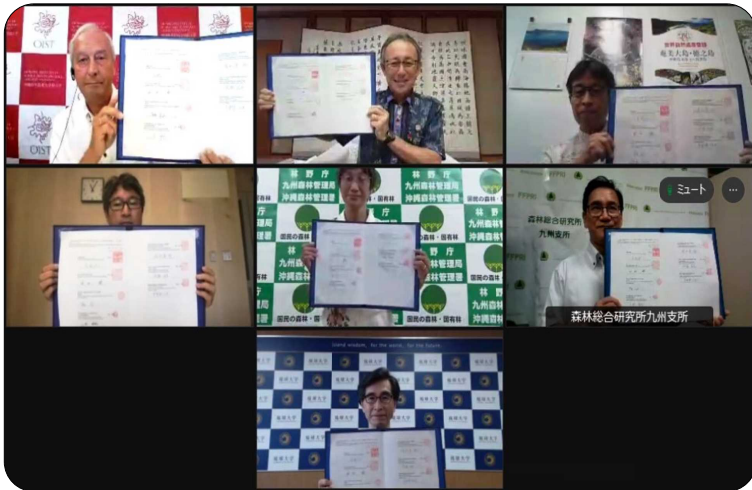
丸太切りの参加者からは「難しい」「初体験です」「久しぶりに切った」「思い出し持ち帰ります」等、感謝の声と笑顔がありました。小雨交じりの天候ではありましたが、多くの参加者で賑わいました。



九州局、大分署並びに大分西部署のスタッフ一同

九州森林管理局・大分森林管理署・大分西部森林管理署合同ブースでは参加者による丸太切り体験が行われ、切断した円盤を磨き、焼き印を行い、記念コースターとして配布しました。

吹奏楽部による演奏、トークショー、音楽ライブ等が実施されました。出展ブースには、巣箱作り、ボルダリング、ウォータージェットによる火消しの体験コーナー等と山に関する出品・情報提供等がありました。



協定を結んだ関係7者の皆さん

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」に関し、沖縄県内の登録地域及び緩衝地帯の保全管理や保全管理の担い手としての若い世代や地域の人材育成に関して一層の連携・協力を図ることを目的としています。

協定締結式は新型コロナウイルス

【沖縄森林管理署】  
沖縄森林管理署と沖縄県、琉球大学、沖縄科学技術大学院大学、国立環境研究所、森林総合研究所九州支所、環境省沖縄奄美自然環境事務所

の全7者による、「沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地における保全管理等のための連携と協力に関する協定書」の締結式が

# 沖縄県内の世界自然遺産地の 保全管理を関係7者で取り組む

去る8月19日に行われました。この協定は、令和3年7月に世界自然遺産に登録された「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」に関し、沖縄県内の登録地域及び緩衝地帯の保全管理や保全管理の担い手としての若い世代や地域の人材育成に関して一層の連携・協力を図ることを目的としています。

伊藤香里署長からは、沖縄県内の登録地域・緩衝地帯の約7割は国有林であり、沖縄署としても関係機関としっかりと連携し協力を得ながら適切な管理経営を行っていきたい旨の挨拶を行いました。

感染症の緊急事態宣言下であることから、オンラインでの実施となりましたが、玉城デニー沖縄県知事をはじめとする参加者からは、貴重な自然を将来にわたり適切に継承していくことの重要性や、モニタリングデータの蓄積、若手の研究者の育成体制などについて紹介があり、今後の連携に期待するところが述べられました。



協定書を手にする伊藤署長



## とるのは写真だけ 関係行政機関合同で希少野生動物 の密猟・盗掘防止パトロールを実施

【沖縄森林管理署・西表森林生態系保全センター】

本年7月26日に島の大部分が世界自然遺産（「奄美大島・徳之島、沖縄島北部及び西表島」）に登録された西表島は、亜熱帯性気候やその成り立ちから独自の進化をとげた沢山の希少な野生動物植物が生息・生育しています。島内のほぼ

全域が国立公園に指定され、また林野庁の定める森林生態系保護地域の範囲も拡張された他、竹富町自然環境保護条

例の改訂により指定動物が選定され、国内希少野生動物種も新たに数種が

指定されるのなど貴重な動物植物を守るための保護体制も充実してきています。その一方で、それらの貴重な動物植物はこれまで心ない採集者によって島外へ持ち出され、その生息が脅かされている現実があります。

採集者は研究や撮影などの昆虫採集が主たる目的の手續きを経た採集者が大半ではあるものの、一部の採集者は希少な植物、甲殻類や両生爬虫類などほかの生き物も採集し

て持ち帰ったり、個人の趣味の域を超えた過剰な採集を行うケースもあり、過去には昆虫を採集するために洞を刃物で無残に広げられたスタジイなども発見されています。このような行為が今後行われな

いよう環境省、竹富町、八重山警察署、沖縄森林管理署、西表森林生態系保全センターが連携し毎年パトロールを実施しています。

特に春、夏、秋の特定の昆虫等が発生する時期に採集者が多くなっていることから、今年度も8月7日（土）、9日（月）に関係機関合同で密猟・盗掘防止パトロールを実施しました。当日は、数台の車両に遭遇したので、本趣旨の協力について呼び掛けを行い、観光客には普及啓発用のチラシを配布しながらパトロールを実施し、今年度は主要なポイントに「とらないで西表島の希少な動物植物」、「密猟・盗掘監視強化中」といった工夫を凝らしたのぼり旗を設置しました。

今後とも密猟・盗掘の防止と普及啓発のために定期的に関係機関合同のパトロールを実施することを確認し今回の合同パトロールを終了しました。



パトロールに参加した関係機関の皆さん



設置したのぼり旗の様子

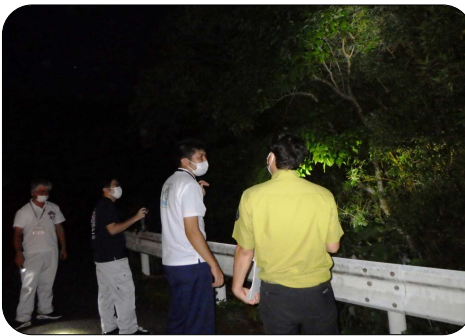
## 奄美大島 希少種保護のための 夜間合同パトロールに参加

【鹿児島森林管理署】

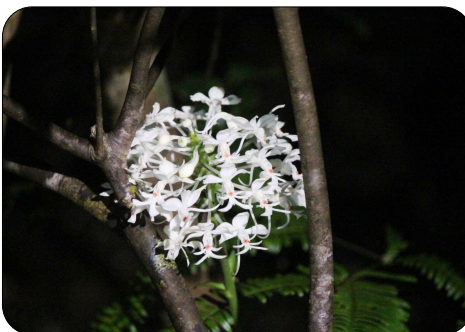
8月18日、世界自然遺産に登録された奄美大島の森林で、希少種等の盗掘・盗採を防ぐための夜間合同パトロールが始まりました。

奄美大島の森林には鹿児島県や市町村の条例などで捕獲が禁止されている昆虫や爬虫類が多く生息するほか、国立公園の特別地域内などでは昆虫等を捕獲するトラップの設置が制限されているものの、違法な捕獲やトラップの設置

が行われています。この日は奄美市、環境省奄美群島国立公園管理事務所及び鹿児島森林管理署名瀬森林事務所の職員ら合計6名が参加し、奄美市名瀬の夜の林道沿いをパトロールしました。自動車でゆっくりと走りながら、懐中電灯で木の幹や枝などを丹念に確認していきます。途中ガイドツアーの一行、ハブ捕獲目的の車両に出会いましたが、この日は不審車両や違法な昆虫トラップの設置等



夜間パトロールの様子



ツルランの花



は確認されませんでした。

夜の林道にはアマミノクロウサギやオットトンガエルなどが普通に見られ、林内にはツルラン（絶滅危惧2類）の白い花がライトに照らされて美しく輝いて見えました。林道沿いでこのような希少種を普通に観察できるという、奄美大島の特異な自然を将来にわたって維持することが私たちに課せられた大きな課題であることを改めて認識しました。

奄美大島の島内各地では秋ごろまで、関係機関による合同パトロールが行われる予定です。鹿児島森林管理署も引き続き協力をしていく予定です。

## 令和3年度第一回九州森林管理局保護林管理委員会を開催

令和3年7月29日に今年度第一回保護管理委員会をWEB会議方式で開催しました。冒頭、小島孝文九州森林管理局長から、「7月26日に世界自然遺産に推薦していた奄美大島、徳之島、沖縄島北部及



WEBによる委員会の様子

び西表島について、世界遺産委員会において世界遺産一覧表への記載が決定したところであり、委員の皆様には、国有林を保護林に設定するにあたり、現地に足を運んでいただき、貴重なご意見を頂いたことに改めて感謝申し上げます。本日の主な議題である昨年度モニタリング調査を実施した各保護林の管理方針書については、これまでの委員の皆様からのご意見を踏まえ、内容の充実を図っているところではあるが、今回も忌憚のないご意見を頂きたい」との挨拶がありました。

管理委員会における意見への対応について、「令和2年度保護林モニタリング調査実施保護林に係る管理方針書について」等の説明がありました。

昨年度モニタリング調査実施保護林に係る管理方針書について、委員からは「希少個体群保護林における台風被害の報告があったが、希少個体群保護林には保全利用地区が無いため、特に面積の小さい保護林は周囲の環境変化による影響を受けやすい。保護林周辺での伐採の考え方を教えてほしい。」「近い距離にある保護林でモニタリング実施間隔に違いがあるが、どうしてか」などの意見が出されました。これらについて、「保護林に外接している森林では皆伐を行わないことになっており、このような森林自体が緩衝機能の役割を果たしている」、「モニタリング間隔の違いは、シカ被害発生箇所が局所的なものかどうか、また、隣接する集落・農地のシカの被害状況を含めて判断したもの」などの回答を行いました。

美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界遺産一覧表への記載について「令和3年度保護林モニタリング調査について」「重点的対策実施17保護林に関する対策実施状況について」等についての説明を行いました。

九州森林管理局では、頂いたご意見を踏まえ、今後の保護林の保全管理に引き続き取り組んでいくこととしています。

(担当：計画課)

## 熊本県との意見交換会を開催

【熊本森林管理署・熊本南部森林管理署】

7月26日、熊本県庁会議室において、令和3年度の熊本県と九州森林管理局及び県内森林管理署との意見交換会を開催者23名が参加のもと開催しました。本年度の意見交換会には九州森林管理局から、小島孝文局長をはじめ川戸英騎次長、山根則彦計画保全部長、大道一浩森林整備部長等の局幹部の出席を頂きました。意見交換会は当署の内村圭一



意見交換会の様子



挨拶される小島局長

総括地域林政調整官の司会進行により、冒頭、小島局長から「現在の情勢から民国連携はますます重要となっており、本日の会議を通じてお互いが理解を深め、熊本県の森林・林業・木材産業の発展に資するように願います」との挨拶に続き、熊本県の大



岩槻一森林局長の挨拶がありました。

続いて熊本県、局及び県内署の令和3年度の重点取組事項等についての説明と質疑応答が行われ、意見交換では民間連携の推進をテーマにして、森林環境譲与税と森林経営管理制度、特定流域総合治山対策、スマート林業や技術開発、シカ被害対策、災害に強い森林づくり、早生樹等の熊本県における林政課題について活発な議論を行いました。

熊本県においては、5年前の熊本地震や昨年の令和2年7月豪雨等の大きな災害が発生していますが、改めて民間が連携・協力することを確認して大変有意義な意見交換会となりました。

## 「針葉樹人工林におけるシカ痕跡の広域多点調査」勉強会を開催

7月27日、局シカ被害対策P.T事務局主催による「針葉樹人工林におけるシカ痕跡の広域多点調査」の勉強会を各署等からの参加者及び担当職



員等46名の参加のもと熊本県御船町西原村の吉無田国有林内において、調査職員の技能レベルの均一化及び調査データの精度向上を図ることを目的とし、昨年度に引き続き2回目の勉強会を開催しました。

「針葉樹人工林におけるシカ痕跡の広域多点調査」は、九州におけるシカによる人工林への被害状況について実態が把握されていない状況にあること、また、新植する造林地にシカ柵等の対策が必要なのか等、その指標が示されていないことから、森林総研九州支所と連携し、九州森林管理局管内



植物同定実習の様子

（沖繩署を除く）国有林を対象として調査を継続して実施することにより、事業実行の指標としての活用、及びそれに伴う民間有林への波及を目的としたものです。

### シカ痕跡被害調査実習の様子

当日は、局シカ被害対策P.T事務局委員長の川戸英騎次長の挨拶の後、森林総合研究所九州支所の山川博美主任研究員より「調査についての知識とシカ影響簡易チェックシート」について調査要領を指導していただくとともに、昨年度の調査結果「シカ影響レベルの高い地域」や「シカ生息拡大最前線」を地図上に

可視化することができたこと等から今後については、国有林以外の調査未踏の空白地帯についても、関係機関等への協力も得ながら空白地帯を埋めることが必要との説明がありました。

午後からは現地に入り「シカ影響簡易チェックシート」を使用した実際の調査手法、シカの足跡やシカが食べた痕跡の見分け方、及びシカが好んで食べる嗜好植物やシカが嫌いな不嗜好植物の同定について実習を行いました。

今回の勉強会では講義に加えて実習もあったことから、より深い理解と具体的なイメージを得ることができ、また、参加者から実際に現場で迷った部分や疑問などについての発言があり、その際の対応について、山川博美主任研究員よりアドバイスをいただきました。大変有意義な勉強会となりました。

本調査については、8月より開始し年4回程度の調査を行った後、今後のシカ被害管理のための基礎情報として継続的に実施することとなります。

（担当）技術普及課

## 新しいシカ捕獲技術「小林式誘引捕獲法」の説明会を開催

7月21日に九州森林管理局において、くくりワナを使用した新しいシカ捕獲技術（小林式誘引捕獲法）の発案者である近畿中国森林管理局保全課保護係長の小林正典氏を招き説明会を開催しました。

小林式誘引捕獲法は、シカが餌を食べるときに口元周辺に足を置いていることなどの習性を利用して捕獲する方法で、通常使用しているくくりワナ（押しバネ、ワイヤー跳上式）の周りに空はじきを防



説明会の様子



ぐための石を置き、その周りにドーナツ状に誘引する餌を撒くことが特徴です。

これまでのくくりワナの設置と比較して優れている点は、①餌で誘引するため、獣道でなく林道沿線に設置できる②利用頻度の高い獣道を見分ける技術やシカがどこに足を置かか見極める技術が不要③ワナがどこにあるか一目で分かり安心④林道沿線に設置できるため、見回り止め刺しが容易⑤捕獲コストの抑制が可能が挙げられ、林野庁も推奨しています。

九州森林管理局ではくくりワナでのシカ捕獲を職員等により実施していますが、くくりワナ設置の熟練技術者が退職によって減少しているのが



くくりワナ設置の様子

現状です。

今後においては、従来のくくりワナと小林式誘引捕獲法の捕獲率など比較検証を行いながら技術者の育成も含め新しいシカ捕獲技術の導入に向けて検討を進めていく考えです。

(担当Ⅱ保全課)

## 令和3年度日本 林業技士会宮崎 県支部研修会で 当センターの取 り組みを紹介

令和3年7月15日、宮崎市において日本林業技士会宮崎県支部通常総会に併せて研修会が開催され、技士会からの要請により現在センターが行っている技術開発課題の2試験地について概要や経過状況等を紹介しました。

この研修会は毎年開催されており、今回は会員及び賛助会員と森林管理署職員の参加も含め総勢88名となり、林業事業体、苗木生産者並びに当センターから講演及び情報提

供等が行われました。

林業事業体からは、木城林産株式会社より大型ドローンを活用した架設作業の効率化（令和2年度国有林間伐・再造林推進コンクール優秀賞受賞）について講演され、効率的に作業が行えることや、本体、バッテリー等の展示もありました。

また、苗木生産者からは、株式会社長倉樹苗園より素材価格の高騰などから伐採が増加し、再造林を必要とする林地も増加傾向となる状況において、スギ苗木の生産に関する課題や需給動向、新たな苗



研修会の様子

木生産技術等について講演されました。

当センターにおいては、特定母樹の中苗等を活用した造林コストの省力化や、自動撮影カメラを活用したシカ生息密度の推定等について、日南市と人吉市の試験地を紹介しました。

これからもこのような研修会等に積極的に参加することで、九州森林管理局や当センターの取り組みをPRしたいと考えています。

(担当Ⅱ森林技術・支援センター)

## 簡易で丈夫な作業道 づくりを目指して 対馬で研修会

【長崎森林管理署】

7月28日、対馬において森林作業道作設技術の向上を目的とした研修会を開催しました。研修会では、長崎県内では「道づくり」の第一人者である(株)長崎林業の城臺猛氏を講師として迎え、対馬地域の林業事業体2社から5名が参加し、実演と解説を交え



作業道の検討の様子



講師の説明の様子

ながら、簡易で丈夫、耐久性があり継続的に利用できる森林作業道の作設指導を行いました。

九州森林管理局資源活用課高木周一企画官より、現地の状況にあった路網密度と路網の検討、作設指針や作設マニユ





実演の様子

アルの説明後、城臺講師が基本的な作設方法について解説その後、実際に重機を操作し全切り・全盛りを基本とした表土の処理方法や根株を用いた法面保護の実演を行いました。各事業体のオペレーターにマンツーマンで指導し、疑問点について意見交換を行うなど、これまでにない内容の濃い技術指導の場となりました。

これまで対馬では地域の状況に応じた独自の方法で作業道を作設していたこともあり、今回の研修を通して、基本に立ち返ること、法令遵守、安全作業の徹底を申し合わせる事が出来ました。

なお、作業システムは多様で、最適な作業システムは各事業体、さらには各事業地に

より異なること。また、林業機械を購入する場合などは多額の投資が必要となることから、事業体の経営判断についても考慮する必要があります。今後も引き続き計画的な事業発注と事業量の確保により、意欲と能力のある林業事業体の育成に努めてまいります。

## 高齢級ヒノキの有利販売に向け採材検討会を開催

【長崎森林管理署】

8月5日、雲仙市内の小浜温泉嶽国有林において、採材検討会を実施しました。現地は、複層林(上層木ヒノキ108年生、下層木スギ48年生)として、過去には6m程度の枝打ちも行われた林分(上層木の平均胸高42cm、平均樹高21m)です。長崎署では、雲仙天草国立公園第2種特別地域ですが、環境省と協議を重ね各種規制をクリア、景観に十分配慮した上で育成受光伐施業を行い、高齢級ヒノキを生産することになりました。

生産される108年生ヒノキ(枝打ち材)は九州局管内でも稀少であり、秋季記念市



高齢級ヒノキの伐倒の様子



採材の検討の様子

等で400m<sup>3</sup>程度の委託販売を予定しています。そのため有利に販売するための「採材」について、熊本県内の2つの木材市場の担当者を招き、検討会を開催しました。

当初、元玉6m材を生産目標としていましたが、過去に



目周りなど欠点の状況

台風による被害を受けた林分であり、調査の結果、目周り(アテ・年輪に沿って剥離があること)などの欠点が想定されること。また、住宅事情の変化や合板材への傾倒などから、4mを基本に採材し、一部の優良木について6m採材を積極的に検討する旨の方針を決定しました。また、社寺仏閣等への特殊用材としての活用も考えられることから、木材市場を通じ「買い方さん」への積極的なセールスを約束して散会しました。

検討会には伐採・搬出に関する請負事業体の作業員も参加し、ワンストップで市場から木材生産現場へニーズを共有する場となり、有意義な検討会となりました。

## 希少チョウウ保全に向け対馬に保護地設定 高校生がハギ類を移植

【長崎森林管理署】

国内では対馬だけに分布する固有種のチョウウ「ツシマウラボシシジミ」を絶滅の危機から守ることを目的に国有林内に「保護地」を設定しました。チョウウが数を減らしたのが餌となる植物を食い荒らしているのが要因とみられることから、長崎森林管理署では、「チョウウに優しい森づくり」として、50年生のスギ林内の一部を柵により区画し、植生を保護するものです。

保護地では、ツシマウラボシシジミの幼虫や成虫の餌で、卵も産み付けるヌスビトハギやケヤクハギ、フジカンゾウなどの植物を増やし、チョウウの生息につながる環境を整備するものです。シカが植物を食い荒らさないよう25m四方の侵入防止柵を張り巡らし、定期的に森林官が植物の生育状況をモニタリングすることとしています。

8月2日に対馬市及び県立





フジカンゾウの移植の様子

携・協力を深めながら活動の輪を広げていきたい」と期待されています。

また、対馬ではニホンシカが異常繁殖し、農林業被害や生態系への影響も顕著なことから、長崎県では、環境省・長崎県・対馬市・猟友会



対馬高校ユネスコスクール部の皆さん

対馬高校ユネスコスクールの14人が校内で種から育てたハギ類の苗221本を移植しました。

この取組は対馬市自然共生課とも連携しながら、地元の高校生を巻き込んで行うもので市の担当者からは「安定的に管理される国有林での保護の取組みは心強い。互いに連

等と連携し、対馬ニホンシカ対策戦略会議を組織しています。昨年度は7,580頭、今年度は6月末現在で2,935頭を捕獲するなど、地域と協力して引き続き稀少な動物の保護や農林業等への被害軽減に努めて参ります。

## ミステリーサークル見学とVRを体験

【宮崎南部森林管理署】

吾田東小学校放課後児童クラブ主催によるオビスギミステリーサークル見学会が7月26日に開催されました。

見学会には小学生1年生から6年生までの34名と児童クラブ指導員8名、北郷森林ガイドいつつの木7名、ドロー



参加された児童の皆さん

林分密度試験林の概要・森林の働きや大切さの説明後、ミステリーサークルを見学する班とドローン体験をする班の二班に分かれました。

子供たちはミステリーサークルの中心地まで続く歩道を森林浴しながらガイドさん等から、植物の名前や木の実等の説明を聞き、サークルの中心で記念撮影を行いました。また、ドローンによるバーチャル体験（VR体験）では、インストラクターの水口さんから説明を聞き、VRを装着した子供たちは上空から眺めて見る大きな二つのミステリーサークルに歓声を上げていました。



VR体験の様子

ン飛行説明者1名、当署5名の併せて55名が参加しました。当日の朝は小雨が降るあいにくの天候で開催が危ぶまれましたが、子供たちの元気パワーで雨も上がり無事に開催することができました。

始めに林分密度試験林（ミステリーサークル）の入口駐車場で当署の森正文森林技術指導官から飢肥林業の歴史・

## 農業遺産を巡るツアーで三ツ岩オビスギ遺産資源希少個体群保護林を案内

【宮崎南部森林管理署】

宮崎県主催による「地域資源ブランド児童生徒向け現地学習会」が7月29日（木）に開催され、県内の小学生4年

生から中学校1年生までの11名とツアー会社5名、宮崎県2名、当署4名の併せて22名が参加しました。

宮崎県では、地域振興の一環として、ユネスコエコパークをはじめとする世界や日本に認められた地域を地域資源ブランドとして、一体的なPR等に取り組んでいるところであり、その一環として地域の子供達に日本一の漁獲量で300年の歴史を持つ「日南かつお一本釣り漁業」と巨大な大根やくらに象徴される「干し野菜」の二つの日本農業遺産への理解を深めてもらうために実施され、林業遺産に認定・登録されている「三ツ岩オビスギ遺産資源希少個体群保護林」の見学も組み込まれたものです。

現地案内では、当署の森正



説明の様子





散策の様子

文森林技術指導官から飼肥林業の歴史、飼肥スギの特徴などについて、看板やパンフレットを用いた説明後林内に移動し、オヒスギの幹周りを計測したり、木材チップを敷き詰めたふわふわの林内歩道を散策し、豊かな自然を実感していました。参加した子供からは、長さ90cmの挿し木した苗がこんなに大きくなって感動しましたとの感想もありました。

今回の現地学習会では、飼肥林業を代表する弁甲材生産の歴史と豊かな海をつくるのが山であり、森であるということ伝えることが出来ました。今後も地域と連携しながら、保護林やレクリエーションの森を活用して自然の大切さを広めていく取組を進めて

いく考えです。  
また、地元テレビ局も取材に來られ、夕方のニュース番組等の中で紹介されました。

**今年も船浦中学校職場体験を受け入れ**

【沖縄森林管理署・西表森林生態系保全センター】  
沖縄森林管理署と西表森林生態系保全センターでは、昨年度から共同で竹富町立船浦中学校1年生の職場体験を受け入れています。



職場体験の様子

今年度も8月25日(水)に船浦中学校1年生女子生徒2名の職場体験を受け入れました。  
生徒たちは、職場体験当日までに、働くとはどういうことや職業について事前に調べ、職場体験をするにあたってのマナー講習を受講して臨んでいます。  
職場体験当日

は、沖縄森林管理署や西表森林生態系保全センターの業務概要を簡単に説明した後に、看板(看板)の点検を兼ねた林野巡視及びコンパス測量、図面作成の実習を実施しました。生徒達は、8月の暑い中の業務でしたが、暑さにも負けず真剣に業務に取り組んでいました。

昨年度同様、当日の生徒の真剣に学ぶ姿勢もそうでしたが、事前にあった当日の業務内容等の電話確認や聞き取りの際の言葉づかいもとても丁寧でした。今回受け入れた生徒は、沖縄署や当センターの活動に興味をもっていただくことから職場体験の事業所として

選んだとのことでした。  
今回の職場体験学習を機に更に森林生態系の保全をはじめとする森林や林業への関心を深め、将来の森林・林業の担い手として育ててくれることを期待して職場体験学習を終りました。

**「次世代林業マイスター養成講座」で講義  
鹿兒島大学高隈演習林**

鹿兒島大学では、林業人材の育成を目的に、社会人を対象にした「次世代林業マイスター養成講座」(前年度までの名称は、林業生産専門技術者養成プログラム)を実施しており、本年度も「主伐と再造林の課題」に関する講師依頼を受け、国有林現場からの報告や実践を踏まえた講義として、白濱正明技術普及課長と福山拓也企画官(民有林連携担当)が7月19日、20日の両日に鹿兒島大学高隈演習林(垂水市)において受講者17名に対して講義を行いました。



白濱課長の講義の様子

本局としては、引き続き「九州森林管理局と九州・沖縄5大学(九州大学、熊本県

講義1日目は、低コスト造林技術として熊本南部森林管理署管内に設定している「低コストモデル実証団地の概要」とこれまでの成果について、病虫害対策として九州森林管理局が取り組んでいる「シカ被害対策」について、説明しました。2日目は、生産・造林の一貫作業として、効率的な路網線形、森林作業道マニユアル、生産・造林の一貫作業システムでの地拵え事例等について説明しました。

総合討論、質疑では、シカの捕獲後のジビエ以外の活用として、角を薬として活用するなど貴重な意見が出されました。





福山企画官の講義の様子

立大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学)との連携と協力に関する協定」に基づき、積極的に協力していくこととしております。

(担当〓技術普及課)

## 熊本の林業を担う 若者が現地視察 緑の雇用現場技 能者育成推進事業 (集合研修)

7月30日(金)本年度も(公財)熊本県林業従事者育成基金から「森林整備の省力化・低コスト化作業」について講師依頼を受け、白濱正明



研修の様子1

技術普及課長と福山拓也企画官(民有林連携担当)が熊本南部森林管理署管内の「低コストモデル実証団地(以下「実証団地」という。)」において、取組概要とこれまでの成果等について、研修者17名に講義を行いました。

講義では、今後、人工林が本格的な利用期を迎える中、確実に再造林を実施するためには、造林コストの低減が重要な課題であることを踏まえ、その解決策として取り組んでいる中苗(70×100cm)の使用、下刈りの省力化、スギの品種を変える、低密度植栽、早生樹の可能性を説明し、その後11試験区(ゾーン)を移動しながら設置目的、調査内容、これまでの成果等について



研修の様子2

て説明しました。

説明を受け研修生からは、本実証団地における成果を早期に普及していただきたいたとの意見もありました。

また、当日は、炎天下での現地視察となりましたが、研修生には、この暑さを乗り越え熱く熊本の林業を引っ張って行くことを期待しています。

なお、本実証団地における今年度の現地検討会を、第1回目を9月2日(木)、第2回目を11月4日(木)に開催することとしております。詳細は、九州森林管理局のホームページに掲載しています。興味のある方は、是非ご参加下さい。

(担当〓技術普及課)

## 多様な活動の森「上鹿川 地域保全の森」の協定

【宮崎北部森林管理署】

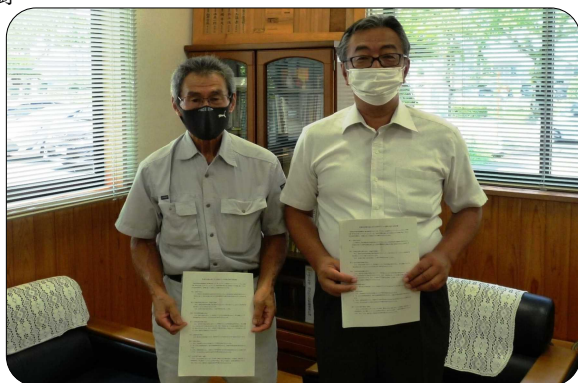
7月28日、延岡チェンソーアートレンジャー部隊と当署は、多様な活動の森「上鹿川地域保全の森」の協定を締結しました。延岡チェンソーアートレンジャー部隊は、平成20年に設立され「地域の森林は地域で守り育てる」を合言葉に、上鹿川地域の森づくりを通じて宮崎県の森づくり活動支援事業などを実施している団体です。

また、九州では日田市に次ぎ2番目設立されたチェンソーアートの団体であり、その技術は高く全国・九州大会などに参加し優勝など多くの賞を受賞しています。

この協定は、延岡市北方町上鹿川国有林内の広葉樹林において、下層植生の鹿被害が進み森林の持つ多面的機能が失われようとしていることを懸念し、同団体が獣害防止ネットを設置し、多様な樹木の天然更新を促すことを目的として協定締結に至りました。

さらに、このエリアは祖母・

傾・大崩ユネスコエコパーク内にも位置するため、森林生態系保全と持続可能な利活用の調和を目指すこととし、野鳥観察会等の森林環境教育や、古道・林道の整備などを、地域住民、その他団体と一体となって取り組むこととして



協定締結の様子

## 「飽田の森」の 森林整備を実施

【熊本森林管理署】

7月31日、南阿蘇村久木野の分収造林契約地「飽田の森」





新しい看板の前で記念撮影

今回の活動の中で、グリーンロードの森は成長した鮎田の森の観察を行うとともに、生い茂った草の刈払い作業や新しい案内看板の設置などに心地良い汗を流しました。



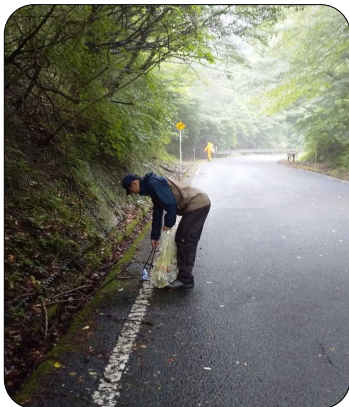
草刈り作業の様子

当日は炎天下の中、主催者挨拶に続いて川畑充郎署長が「今後とも国民参加の森づくりの模範となるように積極的な活動を行って頂き、鮎田の森が令和の時代に、その次の時代に繋がっていくことを期待します」と来賓挨拶しました。その後、参加者の成長した鮎田の森の観察を行うとともに、生い茂った草の刈払い作業や新しい案内看板の設置などに心地良い汗を流しました。

において、鮎田地区青少年健全育成連絡協議会・鮎田の森を育てる会主催による第23回目となる森林整備の活動が、鮎田中学校の教職員・保護者、

鮎田地域住民など25名で実施され、当署からも川畑充郎署長が参加しました。

同会は平成12年に「鮎田の森」を設定し、これまで森林づくりを通じた社会活動や環境教育活動に取り組んできており、本年5月に国民の森づくり推進功労者に対する林野庁長官感謝状の贈呈を受けています。



ゴミ拾いの様子

この取組は、霧島連山自然保護協議会が主催し、毎年、8月第1日曜日に実施しているもので、今回は鹿児島署から8名が参加者し、関係自治体など総勢55名で実施しました。作業箇所は高千穂河原から大浪池周辺を中心に栗野岳、大浪池までの登山道や県道1号及び104号線沿いのゴミ拾い、栗野岳周辺の刈払等を小雨が降る中、2時間ほど行い、今後関係機関等と連携しながら、霧島連山の美化活動の取り組みを続けていくこととし当日の作業を終了しました。

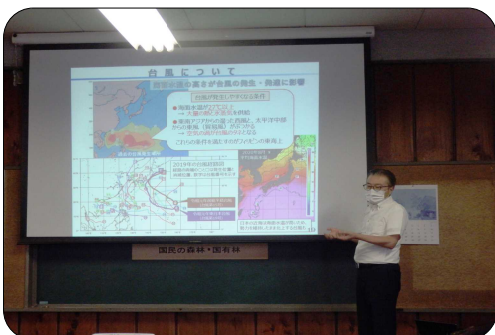
【鹿児島森林管理署】  
8月1日、霧島連山の主要な利用拠点のひとつである高千穂河原周辺において霧島連山自然保護協議会主催の美化清掃運動「クリーン高千穂河原」を実施しました。作業の開始に当たり、主催者より開会の挨拶、作業に当たっての注意事項等の説明があり、各班に別れ作業を開始しました。

## 霧島連山における 美化清掃運動 クリーン高千穂河原の 実施について

ド南阿蘇道路から「鮎田の森」への入口がわかりにくかったことから、入口に新しい立派な案内看板が設置され、今後はPR効果も期待されます。



参加された皆さん



講義される平山防災管理官

【佐賀森林管理署】  
7月29日、佐賀森林管理署会議室において本署及び各森林事務所職員出席のもと、佐賀地方気象台の平山防災管理官を招いて、「近年の大雨と台風の特徴及び新たな防災気象情報」について講義をいただき防災について学びました。はじめに、小野貴行佐賀森林管理署次長の進行により講師の紹介があり、平山防災管理官から「私は、外へ出かけることが多く、植物観察にも関心があります。広報九州の植物のコーナーを毎月楽しみに

## 「線状降水帯」と「台風」 がもたらす影響と備え





講義の様子

に見ています。実は、広報九州の愛読者です」とユーモアを交えて自己紹介がありました。

講義は、①近年の大雨の特徴、②線状降水帯をキーワードにした新たな情報、③近年の台風の特徴、④台風がもたらす災害、⑤段階的に発表する防災気象情報と警戒レベル、⑥九州北部地方の向こう3カ月の天気傾向について、動画面による雲の動きを解説していただきました。中でも、近年大きな被害をもたらしている線状降水帯については、次々と発生した積乱雲により、線状の降水域が数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することによって大雨を

もたらすもので、災害の危険性が高くなる、そのメカニズムについて説明がありました。また、台風については、強風域の大きさ、進路を示す予報円と暴風警戒域などについて説明がありました。

おわりに、小野貴行次長から「近年の気象災害の広域化、1時間80ミリを超える大雨の頻度が高くなっている状況等、貴重な講義をいただき感謝の意を伝え、これから台風シーズンでもあり防災意識の向上に役立てて参りたい」と挨拶を行い、本日の安全会議を終了しました。

## 請負事業者等との安全会議を開催

【熊本森林管理署】

7月29日、菊池市中央公民館会議室において、新型コロナウイルス感染症拡大で延期していた本年度の請負事業者等安全会議を事業実行中の事業体関係者と当署関係者の総勢38名が参加して開催しました。

会議は下大迫伸一総括森林整備官の司会進行により、冒頭、川畑充郎署長から、「昨年度から現在までゼロ災が継続中であり、引き続き熊本署



挨拶される川畑署長

管内からは災害を出さないよう、原点に立ち返ってより一層の安全対策を徹底して頂きたい。」と挨拶するとともに、事業体に対して公共工事等の適正な入札・契約について説明を行いました。

続いて志賀栄一次長から、九州局内の請負事業者等の災害発生状況やタニ刺咬対策等の説明と、DVD（かかり木処理作業の安全）の視聴により、労働災害の未然防止に向けた対策等について学んで頂きました。また、菊池労働基準監督署の2名の担当官から、労働災害の発生状況、熱中症対策、働き方改革に関連した労働時間法制の見直し事項等について、細かく指導して頂



安全会議の様子

きました。

最後に各社の代表者から、現在取り組んでいる安全対策についての発表と意見交換を行い、本年度のゼロ災と安全を祈念して安全唱和「ゼロ災でいこう。ヨシ！」で締めくくり、参加者全員で決意を新たに閉会しました。

**新任挨拶**  
よろしくお願ひします

令和3年8月1日付の異動により新しいポストに就かれた2名の森林管理署長をご紹介します。



古島 勝美  
ふるしま かつみ

**宮崎北部森林管理署長**

年齢 57歳  
出身地 長崎県  
前職 計画保全全部流域管理指導官

抱負 宮崎県北の勤務は初めてとなります。

当署管内は9市町村で九州中央山地から日向灘まで広域な管轄ですが国有林の殆どは山間地域に位置しています。

宮崎県はスギの生産量日本一であり、当署としましてもその一翼を担うよう川上から川下までの地域と連携し持続性を高めながら森林林業が成長発展するような森林整備、加えて保護林の保全、シカ被害対策に取り組みたいと考えています。

また、職員災害の防止及び発注事業における労働災害防止はもとより全職員で明るい職場づくりに努めて参りますのでよろしくお願ひいたします。



# 屋久島森林管理署長



黒木 興太郎  
くろき こうたろう

年齢 57歳

出身地 熊本県

前職 宮崎北部森林管理署長  
抱負 前回、屋久島森林生態系保全センターに一年間勤務しており、今回、一年四か月ぶり二度目の屋久島での勤務となりました。

まず、管内の状況の状況等を早期に確認し、関係行政機関や地域の関係団体等との連携を深めつつ、世界自然遺産の縄文杉などの貴重な森林生態系の保全・整備と種子島を含めハンディのある離島林業の振興に国有林が貢献できるように尽力したいと考えています。

そのためにも職員の方々とともに、安全と健康を第一に明るく風通しの良い職場づくりに取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。



山口 裕和さん

私は鹿児島県出水市高尾野町に生まれ、雄大な紫尾山系を眺めて育ち、四季の変化がある山はとも美しい風景で誇らしさを感じて育ちました。

また小学校低学年時に営林署（現・森林管理署）勤務の父親を持つ同級生がいて、山や森林という言葉を目にしたりますとその友人を思い出します。

## 「幼き日の森林の思い出と今を思う」

友人たちとアケビ取りや山登りなど、幼い時より山遊びをしながらの楽しい思い出がありますが、時が流れて多くの人は生活様式の変化とともに、山を身近に感じる人は少なくなっているのではないかと感じ始めています。

現在、私は鹿児島県の森林インストラクター、木育インストラクターに認定してもらい森林ボランティア活動を始め幾つかのボランティアをしています。その目的は子供達を始め多くの人に山に対し

て関心を持ってもらい貴重な自然を守りたいと考えているからです。

本当の自然な森林はどうあるべきなのかと考えるときに、適正な伐採や育成、心を癒し教育にも寄与する身近な森林、経済活動に連動し国民の生活を支えるためにも、森林環境保全活動が重要であると思います。心無い不法行為により、環境美化を妨げたり災害を発生してしまうこともあります。

私は国有林を含めた森林の自然を守り育て生態系を適正に維持保存するためには、国民の理解と協力が不可欠であり、美しい里山を子孫に伝えていくことが今を生きる人々の使命でもあると考えています。

まず、防災教育活動で使われる「自助・共助・公助」、私はこの言葉は森林保護活動や林業にも適用できると考えています。私ができる「自助」では、微力ながら色々なボランティア活動に参加し、活動を通じて知り合った人々と共に活動をして喜びを得る「共助」で、森林環境保全に楽しく参加していきたいです。

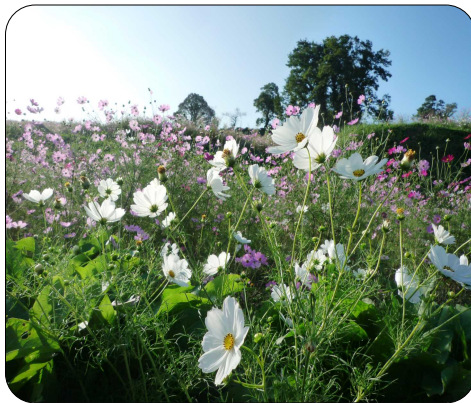
最後に「RINYA」7月号の表紙の画像の建物が何の建物なのかはわかりま

せんが、この建物には、伝統文化、建築技術、建材としての木材生産過程、歴史全てが凝縮されていると思うと心から感動しました。（このことは「公助」かと思いません。）

（鹿児島県出水市在住）



柴尾山系を望む



ボランティア活動で植栽したコスモス





# 166 コデマリ (バラ科)

名前が似たのにヤブデマリ、オオデマリがありますがスイカズラ科でコデマリとは全然違います。オオデマリも球状に花を咲かせますがスイカズラ科であり、コデマリはバラ科となっております。花は見た時に球状に咲き、花の大きさだけの差にしか見えません。



しかしながらオオデマリには花序の花がすべて装飾花であるのに対してコデマリには装飾花はありません。どちらも庭園に観賞用として植えられており、意識して鑑賞しないと花の大小の差にしか見えません。花は枝の上に並んで咲きます。原産地は中国ですが、栽培が容易



森林インストラクター  
安楽 行雄

であるため、江戸時代から庶民の間で親しまれてきた。なので、コデマリは一重咲きから八重咲きまであり、白やピンクの花びらや斑入りの葉っぱ等が特徴的で、切り花や生け花で親しまれています。

特徴は、株元から多くの枝を出し、主幹のない高さ2mほどの株立ちになり、葉身の上半に多くの鋸歯又は欠刻があり、表面蒼緑色、葉身は菱状披針形から菱状長楕円形、鈍頭又は鋭頭となっております。

名前は球形の花序を小さい毬（まわり）に見立ててつけられました。



今年はどうしたんだろう。  
ん、何が？

梅雨の時期である。

九州ではいつもだと5月から6月頃がその時期なのに、あまり雨も降らず夏を迎えた。今年はずっと梅雨と思っていたところに8月のお盆頃には、前線が停滞し線状降水帯も重なり、2週間以上もの長雨や大雨となり梅雨に逆戻りかと思われた。しかも九州各地では土砂崩壊や河川の氾濫が発生し、人や家屋等へ被害をもたらした。

このような異常気象と災害は毎年のように繰り返されており、世界各地でも大雨や山火事、大型のハリケーンなどによる自然災害が発生している。いや自然災害でごまかしてはいけない、人間の生活が豊かになるため科学の発達や環境破壊もその原因であろうから人災であることも忘れてはならない。

そして、環境破壊等には気を付けろとのメッセージで、地球が怒りや悲しみを災害として表しているのだと感じている。

それじゃ自分が地球を守るぞと大きな事は言えないが、電気のスイッチをこまめに消すなど、生活するうえで自分にできる地球温暖化防止の行動や林業・農業に携わって自然とふれあい身近な環境を大切にすることで、地球にやさしい生活を営んで行こう。それと、健康であることも大事であろう。【ほ】